

セブン 7A 私たちのスローガンです

- Adolescent 思春期保健の推進
- Abortion 安全な人工妊娠中絶
- Access どこでも誰もがサービスを受けられる
- Advocacy 啓発・提言活動
- AIDS STI及びHIV/エイズの予防
- Ageing 高齢化社会対策
- Abuse 児童虐待の防止

家族と健康

Reproductive Health



一般社団法人
日本家族計画協会

〒162-0843 東京都新宿区市谷田町1-10 保健会館新館
電話03(3269)4727 FAX03(3267)2658 http://www.jfpa.or.jp
発行人:北村 邦夫 編集人:三橋 裕行 毎月1回1日発行

厚労省 新型コロナウイルス感染症 流行下の自粛の影響調査研究へ

研究会家族計画研究センターも分担研究を担当

厚生労働省は令和2年度厚生労働行政推進調査事業費補助金(厚生労働科学特別研究事業)研究として、「新型コロナウイルス感染症流行下の自粛の影響―予期せぬ妊娠等に関する実態調査と女性の健康に対する適切な支援提供体制構築のための研究」(研究代表者:安達知子公益社団法人日本産婦人科医会常務理事)を8月13日に採択した。事業の予定期間は8月31日から令和3年3月31日まで。今号では本研究の目的や、期待される効果などの概要を示す。

課題把握のために 種々の観点から調査

今般の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が拡大の影響により、これまで経験したことのない状況(学校の一時閉校、就業制限など)による所得低下、他者との接触の制限、外出制限による自宅滞在時間の増加、家庭内暴力の増加などへの警鐘が国際的に鳴らされてお

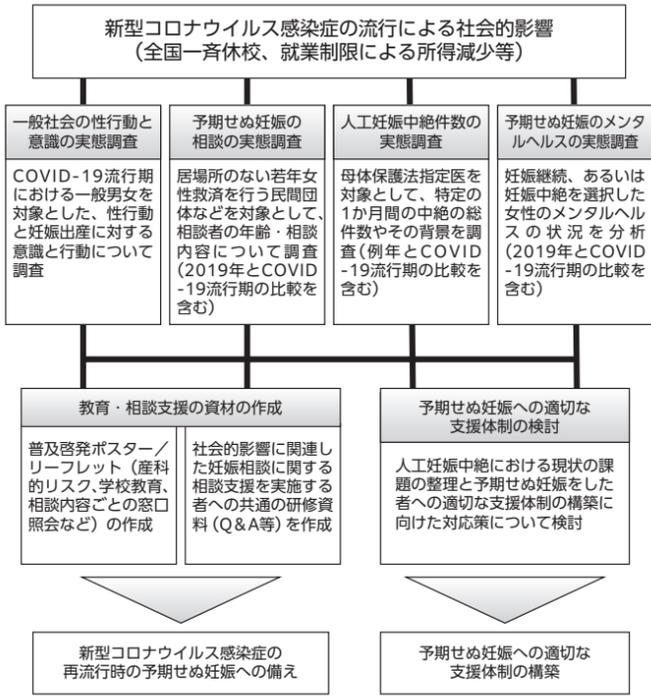


図1 本研究の流れ図

ながる可能性もある。わが国においてはこれらの実態は不明であるため、種々の観点から調査し、課題を把握することによってその対策、支援体制を構築し、女性の健康を推進することが求められる。

本研究では、COVID-19がまん延する状況下における一般の女性の行動、妊娠、子育てなどに対する意識調査を行い、かつ、他者との接触を控える自粛環境が不妊治療を受ける患者と不妊治療施設にどのような影響を与えているかについて、専門学会の調査結果から状況を分析する。

一方、母体保護法指定医を対象として年齢別妊娠週数別中絶件数や中絶に至る背景の調査、その際の避妊の有無や緊急避妊使用の有無を調査し、予期せぬ妊娠などの実態調査を行い、前年度と比較可能な範囲で比較する。また、性暴力被害者ワンストップ支援センターの協力のもと、性暴力の実態を昨年度と比較する。さらに、自粛状況から妊娠継続への恐怖や不安を訴える妊婦の実態を把握し、助産師・保健師がメ

ンタルヘルスを評価。支援の基礎技術を身に付けられるよう、支援の方策を検討する。併せて、この状況下に自宅にいることができない、いわゆる「困難な問題を抱える居場所のない若年女性」の予期せぬ妊娠などに関する実態についても、これらの救済を行っている複数の民間団体に聞き取り調査を行い、対応策について検討する(詳細は、図1参照)。

本研究は研究代表者安達知子日本産婦人科医会常務理事のほか、分担研究者として、北村邦夫本会理事長/家族計画研究会センター所長、北村俊則北村メンタルヘルス研究所所長、種部恭子日本

産婦人科医会医療部医業推進部常務理事の4名体制となる(分担する研究項目の詳細は、表1参照)。

本研究会が担当する分担研究では、①一般社会における性行動の実態、妊娠や避妊への意識や行動の調査②本会・避妊教育ネットワーク会員が所属するクリニックを中心に、緊急避妊の処方件数、ピルの処方件数などの動向調査③思春期などに対する性教育啓発冊子の作成などを進めることとして、

研究代表者の安達氏に、相談窓口用のQ&A、対応マニュアル、相

関連した妊娠相談における、相談窓口用のQ&A、対応マニュアル、相

調査の作成、相談支援体制の質の向上を図る。特に思春期を含めた若年層に対して、自粛に伴う状況下のコミュニケーションの在り方や性行動、暴力の防止や予期せぬ妊娠などを回避するプログラムを作成することで、有効な性の健康教育を推進する。これらを通じて、女性の健康全般に寄与できるとしている。

具体的な支援体制の構築へ

研究代表者の安達氏に、相談窓口用のQ&A、対応マニュアル、相

関連した妊娠相談における、相談窓口用のQ&A、対応マニュアル、相

調査の作成、相談支援体制の質の向上を図る。特に思春期を含めた若年層に対して、自粛に伴う状況下のコミュニケーションの在り方や性行動、暴力の防止や予期せぬ妊娠などを回避するプログラムを作成することで、有効な性の健康教育を推進する。これらを通じて、女性の健康全般に寄与できるとしている。

表1 分担する研究項目(敬称略)

所属機関・部局・職名	氏名	研究項目
公益社団法人日本産婦人科医会事業支援部女性保健部常務理事	安達 知子	〈総括〉 COVID-19の流行下における人工妊娠中絶の実態調査 COVID-19の流行下における性暴力被害者のためのワンストップ支援センターの状況調査 COVID-19の流行下における妊婦中の患者および不妊治療施設における生殖医療に対する意識と実態の調査
一般社団法人日本家族計画協会理事長/家族計画研究会センター所長	北村 邦夫	COVID-19の流行下における、妊娠、避妊に対する意識と行動の実態調査および若年者への啓発・教材作成の取り組み
株式会社北村メンタルヘルス研究所所長	北村 俊則	COVID-19の流行下の自粛により妊娠継続に恐怖感を感じる女性のメンタルの諸問題の調査とその対応および支援方策の検討
公益社団法人日本産婦人科医会医療部医業推進部常務理事	種部 恭子	COVID-19の流行下での「困難な問題を抱える居場所のない若年女性」の予期せぬ妊娠等に関する実態調査と支援方策の検討

話を変わるが、6月に娘が産まれた。産声を聞いた時の喜びは今でも鮮明に覚えている。無事に産まれてきてくれたことに決して「普通」のことではなく、これから先、この子が生きていくこと、また「普通」という言葉もまた「普通」という言葉で片付けられない、大変なことであると身が引き締まる▼ふと、考えた。いつかこの子がいることを「普通」のことと捉えるようになるのだから、何事もないことの証として「普通」であるか、それとも「普通」ではないか、という部分ではないだろうか。そう考えれば、普通のことをおさなりにすることは、同じ「変化」に対しても臆せず向き合える。かわいがる娘の顔を

天馬空

広告

職域保健の現場から

46

株式会社ヤオコー 保健師 金子 咲子

エッセンシャルワーカーを抱える産業保健師の立場から

本連載では、職域保健の現場で活躍されている方にさまざまな取り組みを寄稿いただいています。今回は、現在のコロナ禍のような非常時におけるスーパーで働く店舗メンバーの労働衛生の改善に向けた対応について、株式会社ヤオコー保健師の金子咲子さんに紹介いただきます。

(編集部)

株式会社ヤオコーについて

現在私が勤務している株式会社ヤオコーは、今年創業130周年を迎えた埼玉県を中心に1都6県に店舗展開しているスーパーマーケットの会社です。社員約3600名、パートタイマー、アルバイトまで入れると約2万5千名ほどの方が従事しています。このコロナ禍で、「エッセンシャルワーカー(社会で必要不可欠な労働者)」という言葉が使われるようになりました。

非常時においても

職場環境の改善は重要

記憶に新しい昨年の台風上陸時、店舗メンバーの中には大きな被害を受けた方もおられました。避難所から通勤された方も少なくありません。そんな時「いつも通りのお店が開いている」との安心感をお客様はよく感じられたかと思えます。

だからといって、長時間労働や労災などが生じる職場環境であってはなりません。店舗メンバーの安全と健康を第一に、必要に応じて品出し作業が追いつかない状況だったといえます。「密」を避けるために分散来店などを呼び掛けて

コロナ禍の客殺到で休職者も

3月に東京都からのスク・トレットペーパー「ステイホーム」呼び掛けで、店にはお客様が殺到しました。以降も忙しいう状況は続いており、日持ちする食品・マ



先代会長の店舗メンバーへの思いやりから始まった社員食堂。「健康はまず食事から」をモットーに、各店舗社食担当を集めた会議を行った (2020年2月実施)

神経失調・うつ状態・腰痛などさまざまですが、よくお話を伺うと働き方や人間関係など何かしらの要因となり得ることを、それぞれが抱えていたことが浮かび上がりました。店舗の主任や副店長、店長向けにはメンタルヘルス研修を定期的に行っており、現場でも研修を生かして体調が心配される方とよくお話をしてくださっております。しかし、医療につなぐ必要性に早期に気付いて対応することは、やはり医療職でない判断が難しいところだと思います。「おや？」と思った時に早期に情報を頂く仕組みづくりが喫緊の課題です。



30年前に思春期保健相談士の認定を受け、今まで多くの子どもたちからの相談に応じてきました。情報化社会の流れから電話相談件数は年々減少していますが、このコロナ禍においては思春期男子の相談件数は増加傾向となり、休校やステイホームといわれる自粛生活が影響しているのか、普段とは少し違った相談も聞かれました。

高校2年生男性からの電話相談では、「交際相手

手でちゃんと付き合ってきた関係なのに、彼女が性交を許してくれない。話し合ったが『嫌だ』と言った。自粛生活でたまっている男性の性欲を理解しようとし、我慢してでも応じるべきではないか」と電話口で不満をぶつけてきます。

合意がなければただの強制、夫婦であっても合意のない性交はレイプと同じであること、今はまだ学生でもあり、その現状を判断して、自分のことはもちろん、あなたも守ることを考えて、嫌だと伝えたのだと思いますよと返しました。しかし彼は、ちゃんと付き合っている相手なら性交を

個室に二人で入るなり「いいよね」とキスをされ、そのまま無理やり避妊なしで性交されました。別れ際に「合意して来ただけだから。パワー」と言われ、すぐ着信拒否をされ音信不通になってしまったという相談でした。自分を責める彼女に、責めるべきは、合意のないまま性交を強要した相手、100%悪い。あなたは性暴力を受けた被害者ですと伝え、

高校3年生女性からの相談では、緊急事態宣言が終わった最初の連休に、一か月ぶりに外出がしたくなりSNSでつながった男性とカラオケ店に遊びに行ったところ、

「嫌」は自分の意思で、自分を守ることにつながり、わがままや悪いこと

「思春期・FPホットライン相談員 千田陽子」

《お知らせ》

電話相談

- 思春期・FPホットライン ☎03(3235)2638
- 東京都不妊・不育ホットライン ☎03(3235)7455 ※火曜日のみ
- EC・OCヘルプデスク ☎03(6280)8404

電話相談員募集!

上記の電話相談に応じてくださる方を募集しています。平日、市谷にお越しただけの方、下記まで。☎03(3235)2694



コロナ禍で止まった 受診・通院、健診のフォロー

今後はコロナ禍による受診控えが影響し、疾病発症者が多数出ると推測しております。特に心配な点は、前年度に受診勧奨をしていた方たちの受診状況・通院継続です。弊社もようやくお盆明けから今年度の健診を開始できましたが、「3密」を避けた営業中の

予防のための効果的な

アプローチを模索

私は看護学校在学中に予防することに興味を持ち、いつか保健師として働こうという思いをもちました。しばらく臨床の現場で働いた後、結婚を機に保健学科へ入学

広告

